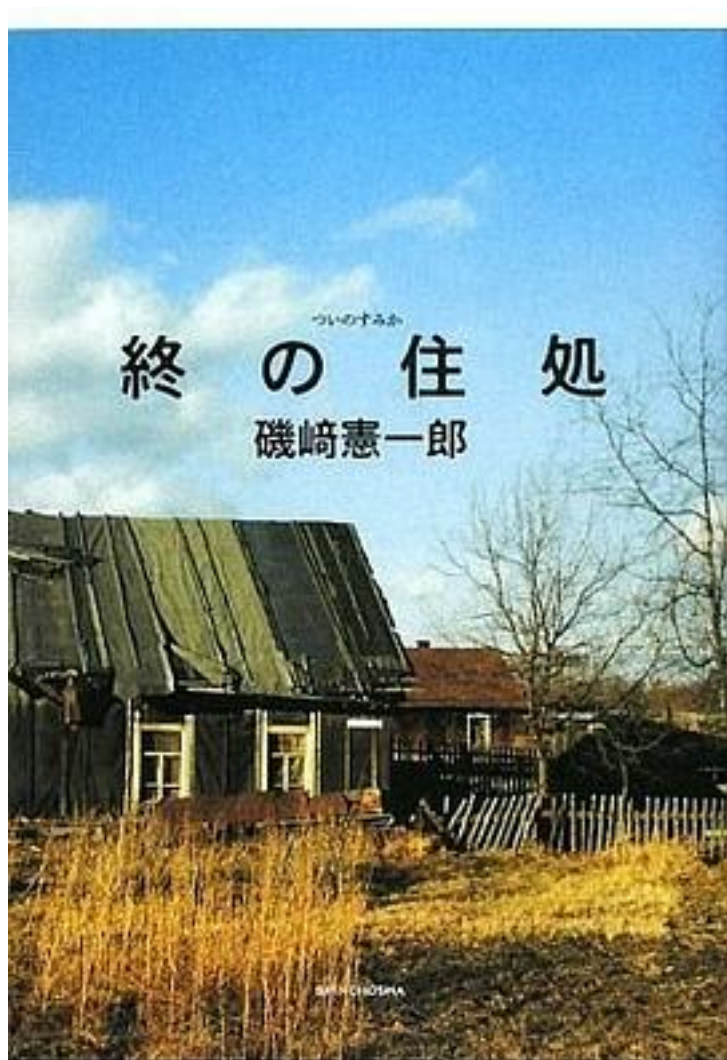


終の住処



[終の住処 下载链接1](#)

著者:磯崎憲一郎

出版者:新潮社

出版时间:2009年7月24日

装帧:精装

isbn:9784103177111

妻はそれきり11年、口を利かなかった一。芥川賞受賞作「終の住処」、書き下し短篇「ペナント」収録。

作者介绍:

磯崎 憲一郎（いそざき けんいちろう、1965年2月28日 - ）は、日本の小説家。千葉県我孫子市に生まれる。東京都立上野高等学校、早稲田大学商学部卒業。三井物産勤務の傍らで40歳を前に小説を書き始め、2007年に「肝心の子供」で第44回文藝賞受賞。「肝心の子供」はブッタとその息子、孫の三世代を描いた中編であり、審査員の一人であった保坂和志からは「素晴らしい身体性を持ったボルヘス」と評された。2008年の「眼と太陽」（第139回芥川賞候補）、「世紀の発見」などを経て、2009年、「終の住処」で第141回芥川賞受賞。

目录:

[終の住処 下载链接1](#)

标签

第141回芥川賞

芥川賞

日本語

文学

憲一郎

原版

磯崎

日本文学

评论

意味が分からなかった。。

超长的一部小说，因为是芥川奖的得主，才买来读。通读之后感悟到，人生中无论一个人，还是夫妻的家族生活，其实都是很孤独的，那个最终的归宿地，充满着寂寞的气息，所谓人生，便是世间在流淌。

[終の住処_下载链接1](#)

书评

我对最后的居所的一点意见就是他写作策略上的平实。作者行文没有故事可言。而这就决定了他写作的日记体的模样。这使得小说仿佛就是他个人的经历似的。既不能说是婚姻的受害者也不能说是一种受益者。他经历着他的岁月带给他的烙印。他个人的生命同社会的习俗在成长中的那种逐渐...

[終の住処_下载链接1](#)